

JACET関西支部

2021年度第2回支部講演会

The JACET Kansai Chapter 2nd Lecture Meeting
of the 2021 Academic Year



- 2021年度第2回支部講演会を下記の通り開催いたします。皆様のご参加をお待ちしております。
- Fee: JACET会員・非会員共に参加費無料です。Free for both JACET members and non-members.
- Access: Zoomにてオンラインで開催予定です。アクセス情報に関して、詳しくはJACET関西支部ウェブサイト(<http://www.jacet-kansai.org/>)をご参照ください。

Date: 2021年10月16日 (土) 15:30-17:00

Saturday, October 16, 2021, 15:30-17:00

Venue: オンライン (Zoom)

Online (Zoom)

Title: 遠隔授業でのライティング指導

Writing Instruction in Distance Learning

Lecturers:

蔦田 和美先生 (Prof. Kazumi Tsutada)

野田 三貴先生 (Prof. Miki Noda)

山下 美朋先生 (Prof. Miho Yamashita)

山西 博之先生 (Prof. Hiroyuki Yamanishi)

MC:

大年 順子先生 (Prof. Junko Otoshi)

Abstracts

Social Citizenとしての英語発信－社会的意識を視野に－

蔦田 和美 先生（関西外国語大学短期大学部）

言語と社会を結ぶことの重要性を踏まえると、大学における英語習得では、言語的習得にとどまらず、社会的意識を構築し自らの主張を表明する力の育成が求められる。ライティングにおいても社会情勢に対する「自分の声」をもつことの重要性は広く認識されている。しかし概して学生の社会に対する関心の低さが散見されること、またこれまでライティングにおける評価において言語知識が優先される傾向にあるという実情もある。このような状況の中、学生がsocial citizensとして英語学習を行う機会として、学生が英語で社会を考える授業実践を行い、彼らのArgumentative skillおよび社会的意識の変化の検証を継続している。本発表では具体的な課題を紹介するとともに、成果の一例として授業前後のライティングの議論性(Argumentativeness)の向上を報告する。

ESDクラスでのチャットを活用した協働的プレライティング活動

野田 三貴 先生（大阪市立大学）

COVID-19の蔓延を受けて、2020年は様々なタイプの学習活動がオンラインで展開した。大阪市立大学でリテラシー強化科目として展開しているESD (Education for Sustainable Development)の1授業では、課題解決型グループプレゼンテーションの原稿作成にLMSのチャットを活用し、協働的プレライティング活動の促進を図った。学生は、課題解決型プレゼンテーションの構成を理解した上で、チャットで話し合いながらアウトラインを作成し、内容が整理された裏付けのあるプレゼンテーション作りに取り組んだ。本発表では、チャット内容、教師の介入、ならびに授業の振り返りシートの結果を紹介し、チャットを活用した協働的プレライティング活動の利点と課題について報告する。

オンライン下でのプロジェクト発信型英語プログラムの挑戦－その取り組みと課題

山下 美朋 先生（立命館大学）

2020年度移行、コロナ禍で大学の授業の多くは対面からオンラインに移行せざるを得なかった。立命館大学生命科学部・薬学部では、ICTを駆使したプロジェクト発信型英語プログラムを展開しており、教員が協働で作成したテキストおよび動画教材をネット上に集め、それらを利用することにより比較的スムーズにオンライン授業を行うことができた。また同学部で展開しているライティング支援センターSAPP (Support for Academic Projects and Papers) の院生チューターも学部生の課題のオンライン相談を行い、授業外の支援を充実させた。本発表では、コロナ禍でのプロジェクト発信型英語プログラムとSAPPの取り組み、その成果と課題について報告する。

大学院共通科目アカデミック・ライティングにおけるオンライン（オンデマンド）授業の試み

山西 博之 先生（中央大学）

総合大学の全研究科（博士前期課程、博士後期課程の大学院生および先行履修の学部4年生）対象の大学院共通科目である「アカデミック・ライティング」において、2020年度、当初の予定に反し実施することになったオンライン（オンデマンド）形式の授業における工夫点および本授業を受講した学生からのフィードバックについて報告する。